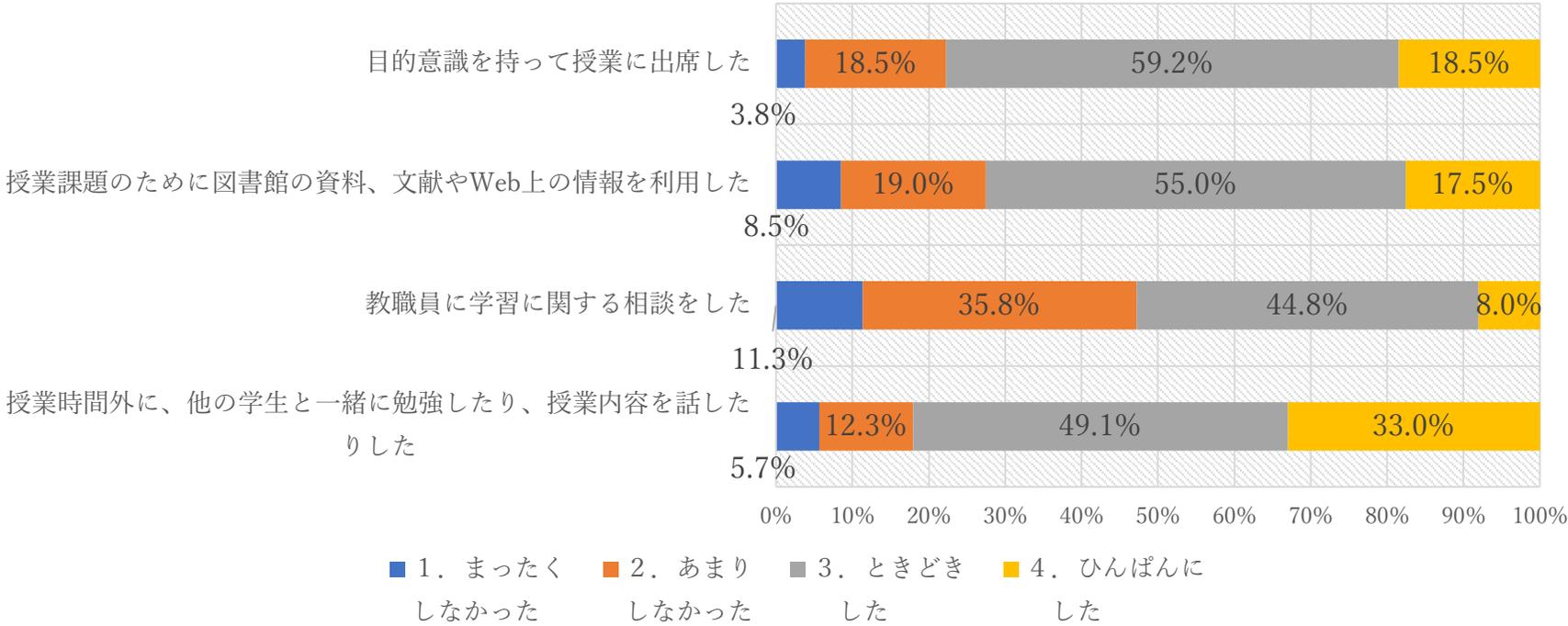
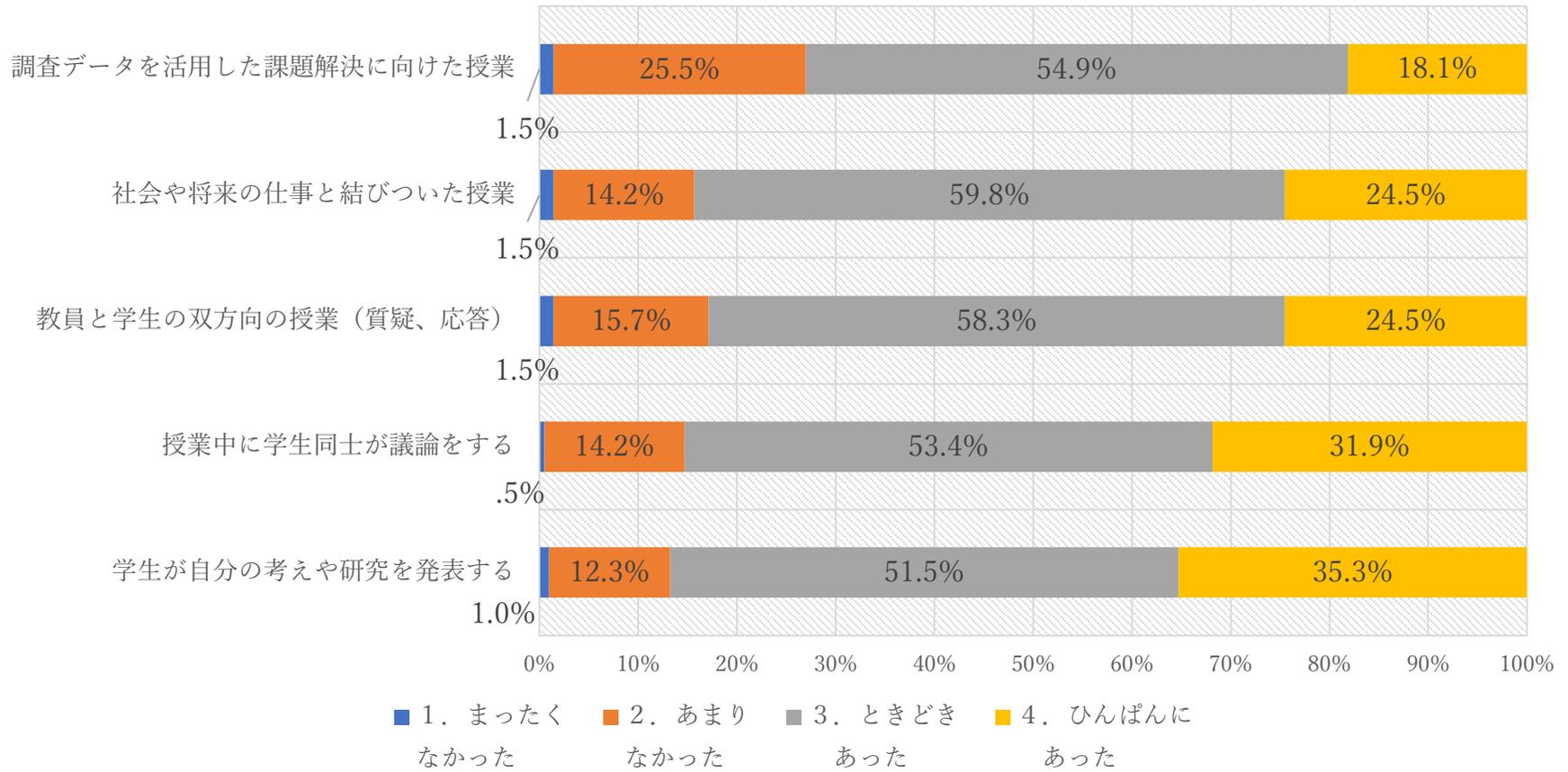


学習行動

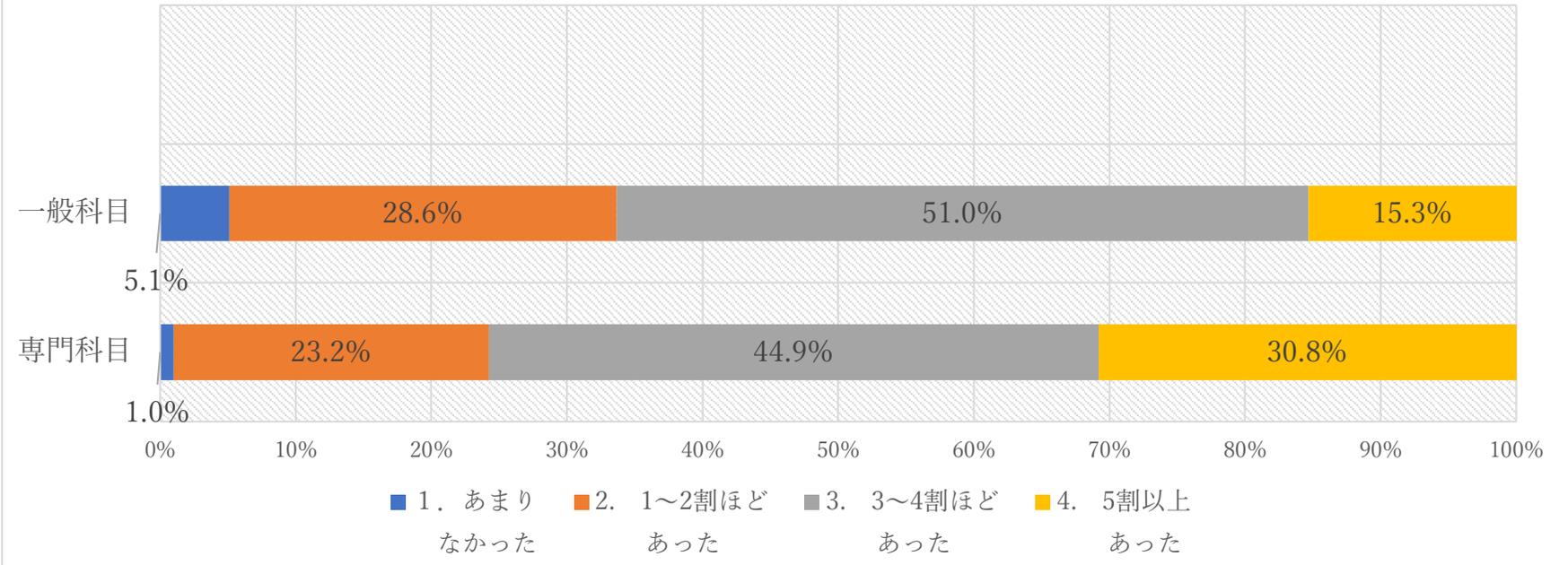


学習機会

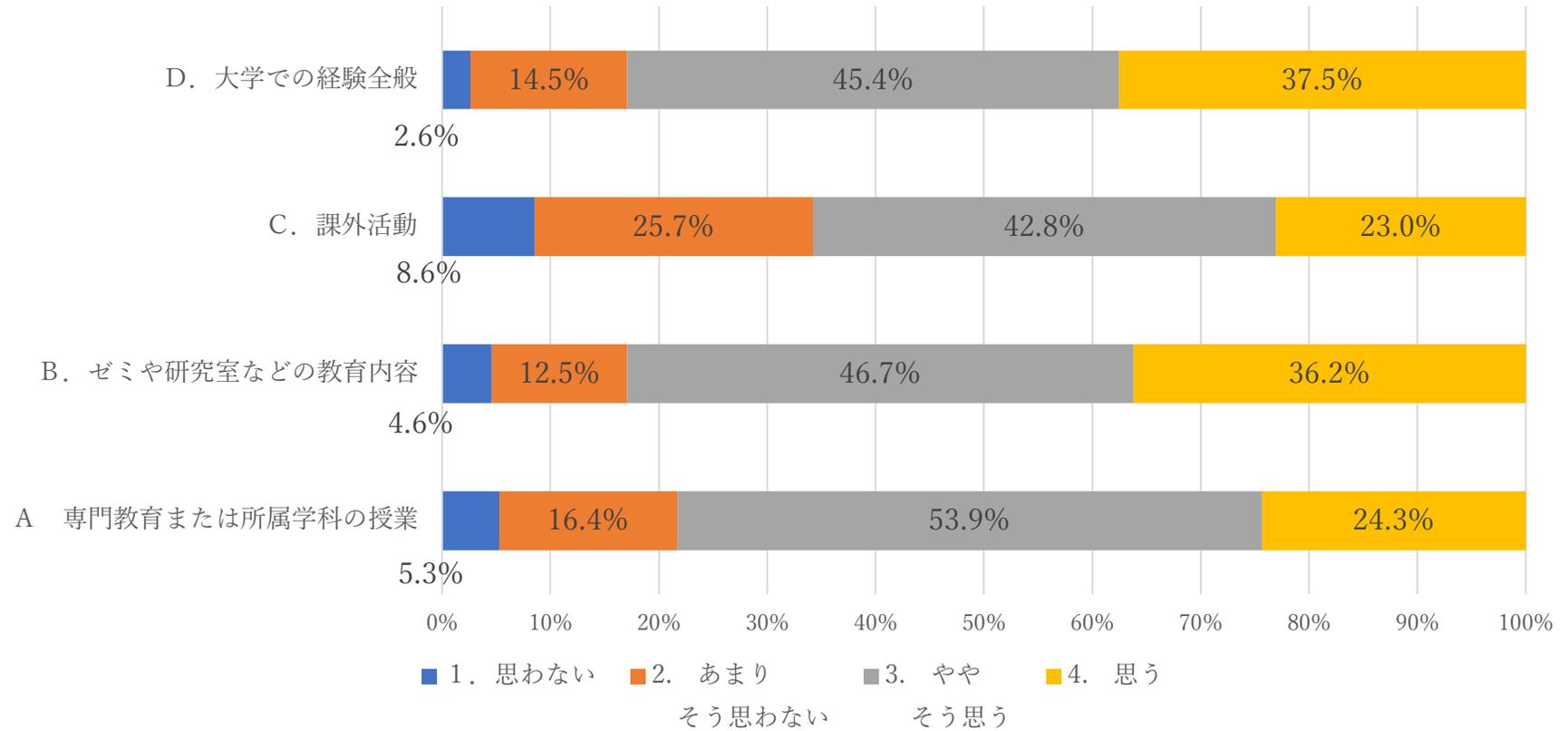


外国語学部

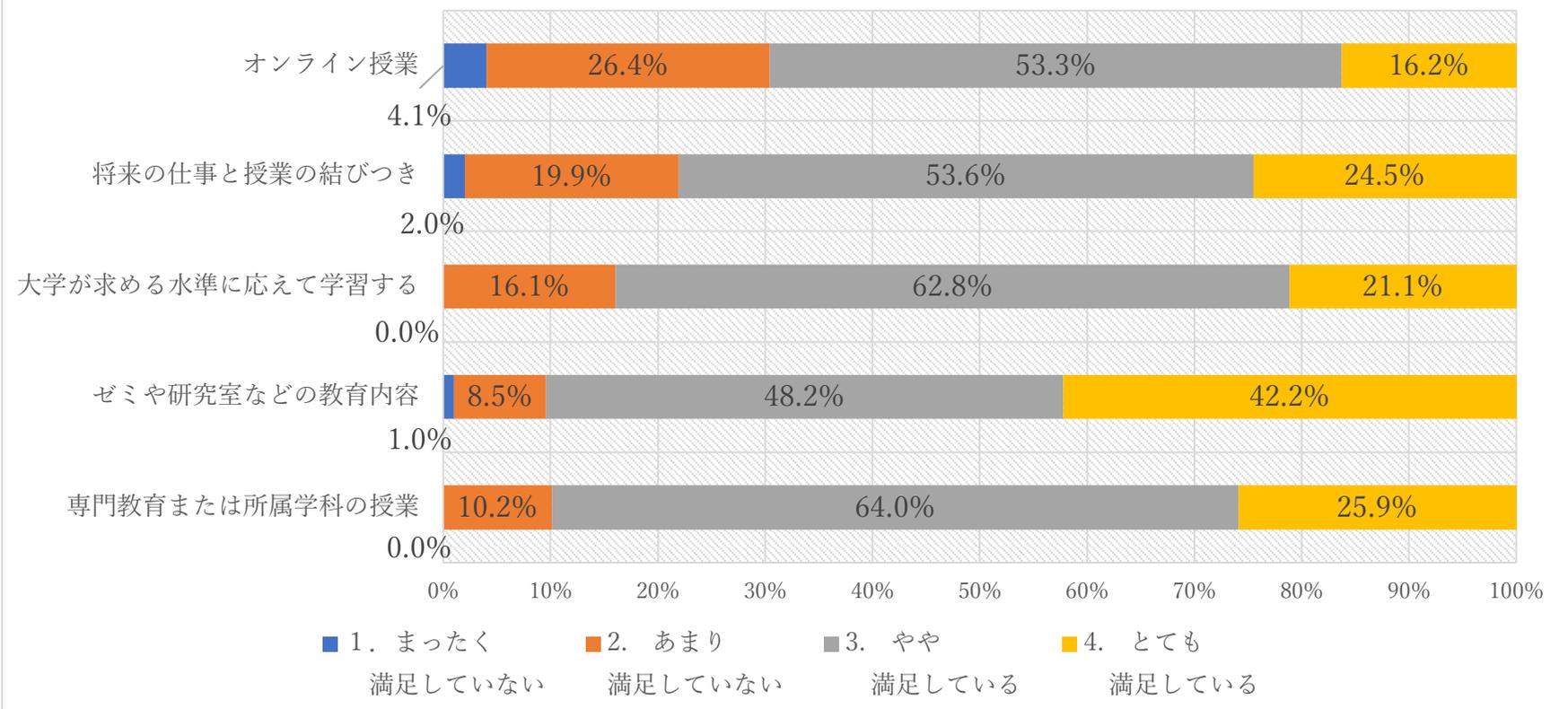
学びの興味・関心



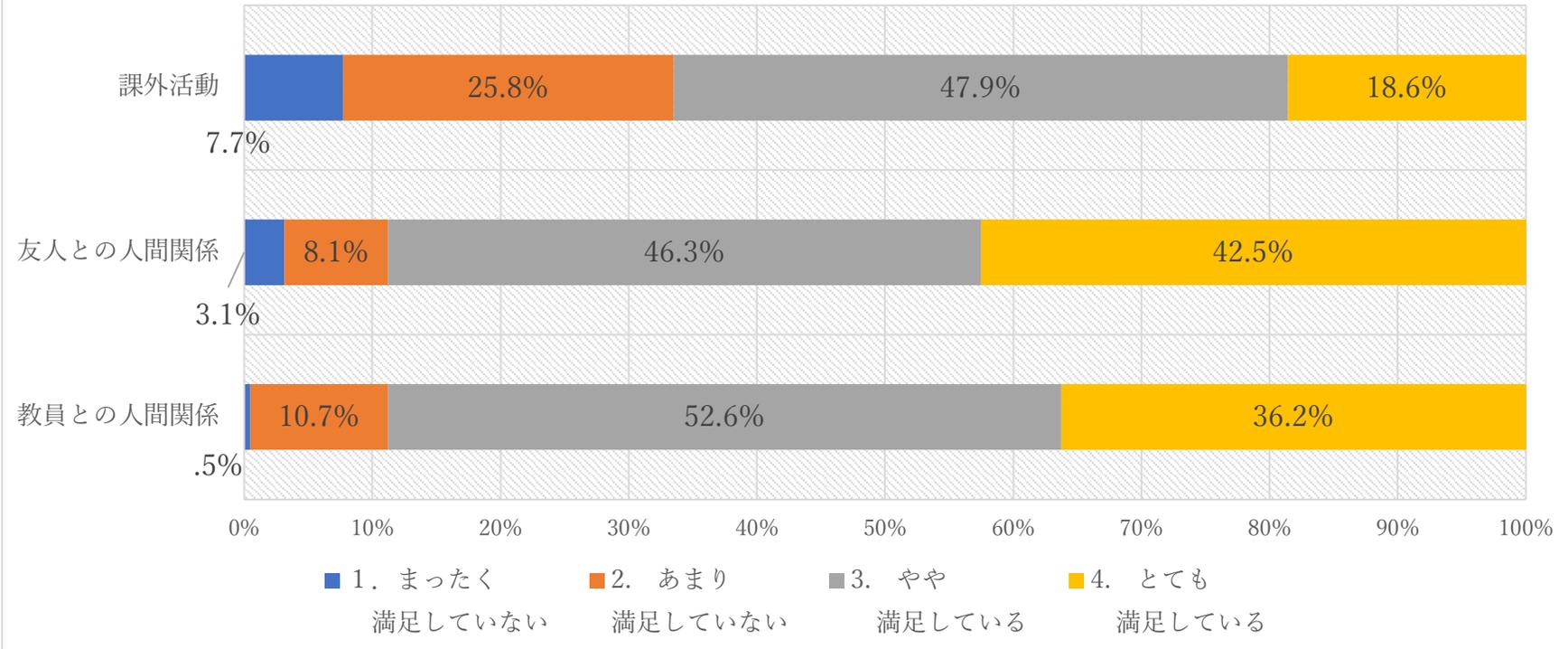
成長実感



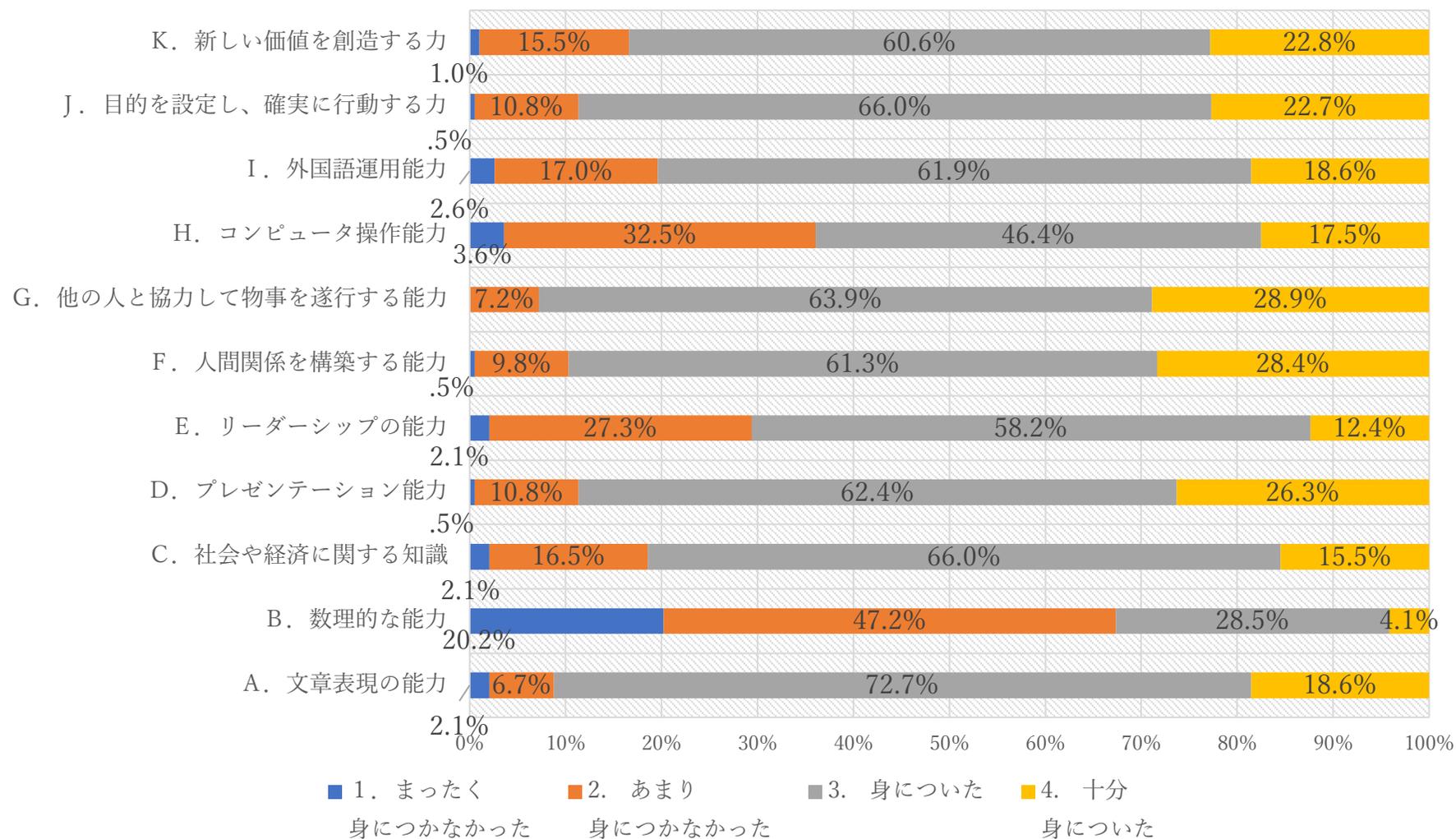
教育内容 満足度



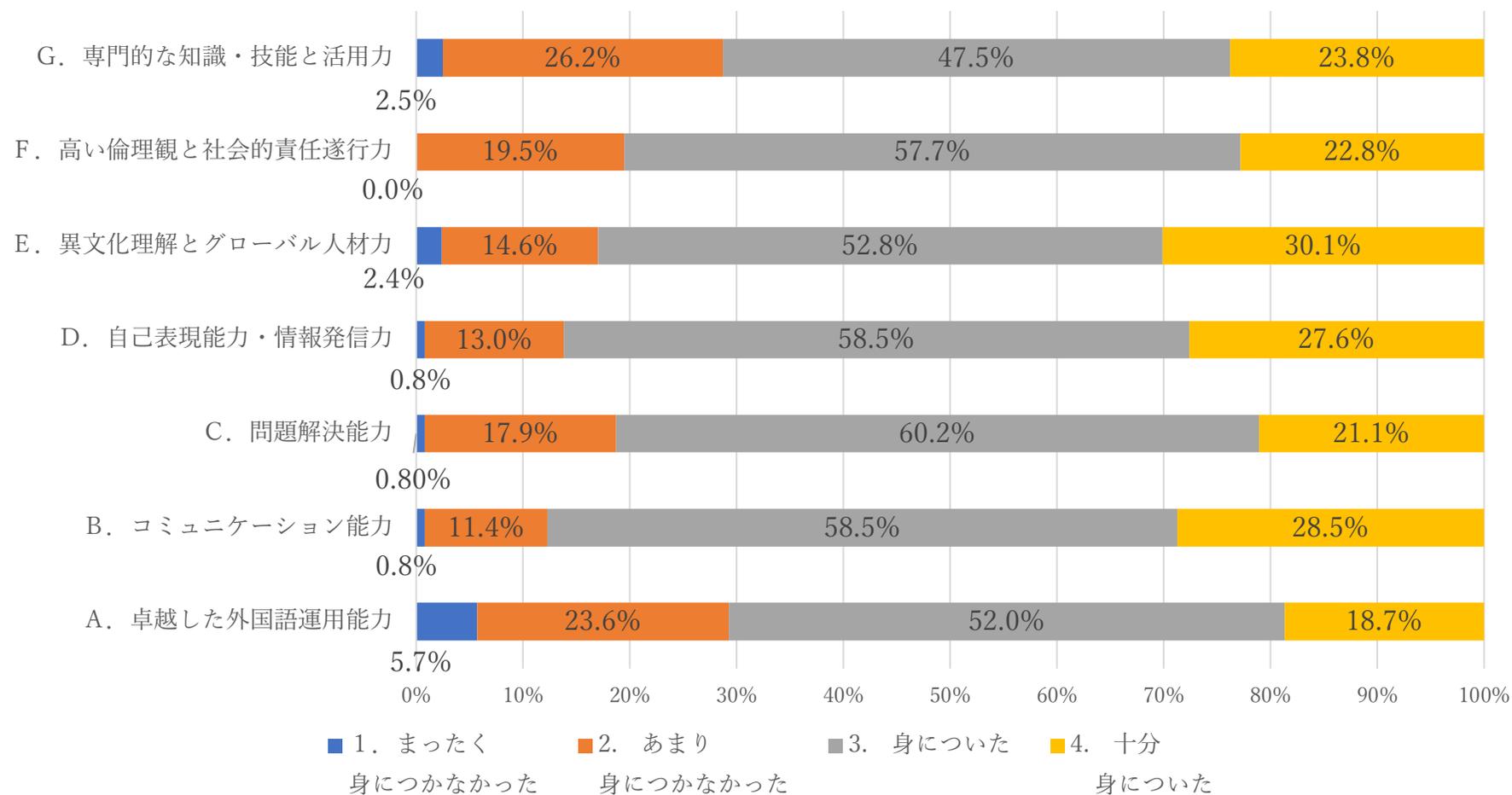
人間関係・課外活動 満足度



卒業時の知識・能力



ディプロマ・ポリシーに定められた学修成果



総 評：外国語学部

昨年度同様、大半の卒業生が積極的に学び、大学生生活に満足して卒業したことが窺えるアンケート結果だった。新型コロナウイルスの影響を受けた2年間を経験した卒業生ではあったが、双方向型授業の機会を得られたと感じた割合が昨年度よりも高かった。これは教職員が連携して学生一人ひとりの状況把握と必要に応じたサポートを心掛けながら、より効果的で学生が主体となる授業を目指したFD研修会を通して教員が自己研鑽に努めた結果だと考える。また、授業に対して興味関心を持って臨めた学生の割合も昨年度より高かった。制限の多い環境でも積極的な学びを継続したことで、ディプロマポリシーに定められた全項目において、7割以上の卒業生が各能力を身に付けられたと実感したのだろう。教育内容に対して大半の卒業生が満足していることから、学部教育が学生のニーズとその目的に合わせて学生の成長を促す機能を果たしていたと言える。

しかし今回の結果は、2020年度からの学内外における行動制限に対して、不満や物足りなさを感じる学生が多かったことも示している。課外活動やゼミナール、専門教育において、成長を実感できたと回答した卒業生の割合が昨年度に比べて低かった。留学・海外研修が全て中止となり、インターンシップやフィールドスタディがオンライン化したことなどが大きな要因であろう。また学内においても、学生同士の議論や学び合いが十分ではなく、友人関係の構築機会に不満を持つ学生も増加したようだ。様々な制限が解除されてきている中で学生のニーズや考え方も変化しているが、学生との対話の機会を増やすことで状況を的確に捉え、学生と共により良い環境を作り上げるという姿勢を維持していきたい。